食品・飼料・環境検査キット ＜きっとセーフ＞ シリーズ

BSE 対策用 RIDA スクリーン 脳・脊髄組織含有テスト（生肉／拭き取り）

ELISA 法による BSE 特定危険部位（脳・脊髄組織）の付着混入スクリーニング検査（定量）

脳・脊髄組織にのみ多く含まれる GFAP（Glial Fibrillary Acidic Protein グリア細胞繊維性酸性タンパク）を ELISA 法により短時間・高感度に検出します。この GFAP をマーカーとして生肉中やその表面、拭き取り表面における家畜類の脳・脊髄組織の汚染／混入を、約 30 分間で定量検査することが可能です。BSE 危険部位として食品への脳・脊髄の混入は世界的に禁じられており、食肉自体や器具への混入・付着や洗浄除去のチェックなど、公的機関の作業標準管理にも用いられている標準的な検査手法です。（BSE 罹患の有無を診断するものではありません。）

（製造：r-Biopharm 社、輸入元：チッソ株式会社）

品名 **コードNo.** **価格** **仕様** **キット内容**	**RIDA スクリーン 脳・脊髄組織含有テスト（生肉／拭き取り）（1512P）** **80，000円（96 ウェル）** **マイクロタイタープレート：8ウェルストリップ×12本、** **標準液（0%、0.1%、0.2%、0.4%）、抗体酵素複合体液、基質発色源液、反応停止液、洗浄バッファー（塩）、希釈バッファー濃縮液：各1本、使い捨てピペット：2本**
	別売オプション： 脳・脊髄組織含有テスト用拭き取り滅菌綿棒チューブセット（1512P20） **プラスチックチューブ、滅菌綿棒：各 200 本 8,000 円**
目的・用途	生肉、精肉中や拭き取り表面におけるウシ、仔ウシ、羊、ヤギ、ブタ、トリなどの脳・脊髄組織の定量検査（GFAP（Glial Fibrillary Acidic Protein グリア細胞繊維性酸性タンパク質）の検出）
原理と **検出限界**	ELISA 法 生肉・精肉ミンチ中における脳・脊髄の濃度として約 0.1% （脊髄にはより多くの GFAP が含まれるため、脳組織より高感度になる可能性もあります。） （拭取り等における脊髄組織はバッファー1mL あたり数十μg で検出できると考えられます。）
所要時間 **保存条件**	操作（前処理含）約 30 分 4～8℃、露光厳禁
前処理	（生肉・肉製品）ブレンダーでホモジナイズし、滅菌綿棒を数回差し込み含浸させる （表面拭き取り）滅菌綿棒を試料希釈バッファーで湿らせ、代表エリア（例：10cm 四方）を拭取る 1mL の試料希釈バッファーを入れた試験管を用意し、試料綿棒を入れて懸濁する。 1 ウェルあたり 50μL を使用する。 （バッファー抽出、遠心分離による方法もあります。お問合せ下さい。）
操作	①試料液、各標準液を 50μL づつそれぞれのウェルに滴下する ②各ウェルに酵素複合体液を 50μL（1 滴）ずつ滴下し、振とう 室温（20-25℃）で 10 分間インキュベート。 ウェル内の液を廃棄後、洗浄バッファー（250μL）で3度洗浄。 ③各ウェルに基質発色源液を 100μL（2 滴）ずつ滴下して振とうする。 室温（20-25℃）で 5 分間インキュベート。 ④各ウェルに反応停止液を 100μL（2 滴）ずつ滴下して振とうする。 ⑤10 分以内に吸光度を測定する。あるいは目視で標準液と比較する。 標準液の吸光度と濃度から検量線を描き、濃度を換算する。 （拭取り試料の場合は標準液濃度を読み換える必要があります。お問合せ下さい。）
その他必要 **機器 試薬**	サンプリング用として綿棒、ミニ試験管、ピペット。 ほか必要に応じフォトメーター(450nm)、50/100/500μL 用マイクロピペットなど

加熱調理済み肉製品（ソーセージ等）における段階定量検査用キット（コード：1511P 操作 2 時間）もあります。

本品は食品衛生・環境等に関わる自主検査用キットであり、臨床検査等診断に用いることはできません。 必ず取扱説明書等をご覧頂き、使用・保管・廃棄等の方法には充分ご注意下さい。 なお、価格・仕様など、内容を予告無く変更する場合があります。

アヅマックス株式会社 http://www.azmax.co.jp/ E-mail:sales@azmax.co.jp
東京営業所 〒104-0032 東京都中央区八丁堀 1-10-7 Tel 03-5543-1630 Fax 03-5543-0312